

序言

発刊にあたって

監修のことば

凡例

第VI編 明治期の草加

序 章 時代の区分と概観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

第一章 明治前期の草加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

第一節 明治前期の行政・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

一 維新政府の樹立・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

維新政府の成立 戊辰戦争と草加市域 武蔵知県事の設置

二 小菅県の治世と草加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

小菅県の成立 草加宿小菅県取締所の設置 報恩講(社)と小菅県

三 埼玉県の成立・・ 19

埼玉県の成立 戸籍法の制定と戸籍区の設定 区役所と村事務所 町村合併

四 地方制度の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

郡役所の設置 戸長役場の設置 町村会の成立

五 連合戸長役場の設置と草加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

連合戸長役場の開設 連合町村会の開設

第二節 地租改正と農業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

一 地租改正の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

壬申地券の発行 地租の改正 改正測量の実際 改正結果

二 明治初期の農業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

明治初期の戸数と人口 耕地面積 兼業農家と専業農家 農産物の実態 上谷塚村

・下谷塚村での輸出品 水田と水環境

第三節 近代教育の発足・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

近代教育の萌芽 郷学 「学制」の公布 小学校の設置 草加市域の小学校 奨学

督励 入学・進級

第四節 明治前期の生活と社会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

一 神仏分離と寺院・神社・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

神仏分離 寺院整理 社格の制定 社寺明細帳

二 巡幸・・ 67

奥羽巡幸 東北・北海道巡幸 巡幸の目的

三 御猟場・・・・・・・・・・・・・・・・	71
御猟場の設定 入猟区の設定	
四 軍事・警察制度・・・・・・・・・・	74
徴兵制度 西南戦争 警察制度の誕生 草加宿屯所から草加警察署へ 草加警察署の 新築と改修 越ヶ谷警察署草加分署・鳩ヶ谷警察署草加分署	
五 消防・衛生制度・・・・・・・・・・	81
明治三年草加宿の大火 消防組の発足 草加宿六番組 谷塚村と新田村の消防組 火の番 公衆衛生 隔離病舎（避病院） 天然痘の流行 衛生組合	
六 生活の変化・・・・・・・・・・	88
身分制度 戸籍制度 太陽暦の採用 文明開化	
第二章 明治後期の草加・・・・・・・・	93
第一節 町村制の成立・・・・・・・・	93
一 町村制の制定・・・・・・・・・・	93
町村制の公布と町村合併の胎動 新町村の編成	
二 草加町など新町村の成立・・・・・・・・	99
新町村の誕生と草加町 町村会の成立 町村長と町村吏員 町村会議員選挙	
第二節 草加市域の自由民権運動と政治・・・・・・・・	106
一 草加と自由民権運動・・・・・・・・	106
自由民権運動の胎動 草加嚶鳴社の結成 高橋荘右衛門と立憲改進黨	
二 憲法発布と政党政治・・・・・・・・	112
政党支部の結成 立憲改進黨支部の結成 自由党県支部の結成 帝国議会議員選挙 衆議院議員選挙 貴族院多額納税者議員選挙 憲法発布と草加町 埼玉県硫酸事件と 草加	
第三節 農業生産の展開・・・・・・・・	126
一 農業生産の変化・・・・・・・・・・	126
明治前期の農業 明治二十五年の重要物産 第四回内国勸業博覧会への出品	
二 農業団体の成立・・・・・・・・・・	130
農会の組織化 新田村農会の組織 農会の決算	
三 農事改良にみる農会の活動・・・・・・・・	132
新農法の導入 稲作改良模範田の指定 農談会の開催 病害虫への対応 審農園の 活動 短冊苗代の推進 草加町稲作模範共進会	
四 旧村と水利施設・・・・・・・・・・	139
排水路の付け替え 村落共同体の変化 水利施設の管理	

第四節 近代産業の萌芽・・・・・・・・・・・・・・・・	143
一 草加宿の変化と商業・・・・・・・・・・・・・・・・	143
明治初期の草加宿 宿の変貌と草加 町場の商いと市日 市日の規約変更	
二 地場産業の動向・・・・・・・・・・・・・・・・	146
ゆかた染のはじまり 晒業 形付業 染色業 草加煎餅商の企業化	
第五節 交通運輸の近代化・・・・・・・・・・・・	150
一 運輸通信の近代化・・・・・・・・・・・・	150
駅通司の設置 助郷制度の終焉 伝馬所と伝馬所役人 陸運会社の設置 飛脚と郵便 郵便局の設立	
二 国道と県道・・・・・・・・・・・・	158
陸羽道の修繕 道路等級と修繕負担 国費打ち切りと公益道 公益道編入運動	
三 馬車鉄道の開通・・・・・・・・・・・・	163
千住馬車鉄道の敷設申請 沿線の対応 千住馬車鉄道会社の発足 千住馬車鉄道の開業 草加馬車鉄道の発足 草加馬車鉄道の開業	
四 東武鉄道の設立・・・・・・・・・・・・	172
鉄道の開業 沿線町村の対応 東武鉄道の開業 開業時の様子 開業当時の草加駅	
五 舟運・・・・・・・・・・・・	176
草加の河岸場 綾瀬川の河岸 古利根川の河岸 舟運の消長 渡し場と架橋	
六 河川の改修・・・・・・・・・・・・	186
近代の河川改修 近代綾瀬川の改修	
第六節 明治期の災害・・・・・・・・・・・・	188
一 草加宿の大火・・・・・・・・・・・・	188
草加宿の災害特性 明治三年草加宿大火 被災の対応	
二 水害と水防・・・・・・・・・・・・	189
水害の多発 明治二十三年水害 明治四十年水害	
三 明治四十三年水害・・・・・・・・・・・・	191
明治四十三年水害 被害の対応	
第七節 明治後期の生活と社会・・・・・・・・	193
一 日清・日露戦争と草加・・・・・・・・・・・・	193
1 日清戦争・・・・・・・・・・・・	193
戦争の発端 勝利のかげに 三国干渉	
2 日露戦争・・・・・・・・・・・・	196
戦争の発端 戦争の展開 戦争協力体制	
二 神社の合祀・合併と寺院整理・・・・・・・・	199

神饌幣帛料供進神社	神社の整理	寺院の整理	204			
三 家のまつり・村のまつり	家のまつり	村のまつり	208			
第八節 明治後期の教育	教育令の公布	学区の改定	義務教育の開始	教育勅語と学校儀式	御真影の奉掲	208
第二次小学校令	義務教育年限の延長	検定教科書から国定教科書へ	校舎の新築	219		
第九節 明治期の文化	一 円朝と紀行文	明治初期文学の諸相	仮名垣魯文	三遊亭円朝	『上野下野道の記』にみる草加	219
二 子規と草加	写真主義と明治前期の文学	正岡子規	子規の草加吟行	高浜虚子と子規	子規没後の俳壇	223
三 草加の俳句結社	近世後期の俳句結社	近代初頭の俳句結社	苗塚吟草記録	埼玉の三俳人	『草の花』と稲乃花吟社	230
			東福寺掲額と草加伝統派			

第Ⅶ編 大正・昭和戦前期の草加

序 章 時代の区分と概観	237						
第一章 大正期の草加地域	239						
第一節 大正期の政党政治と行政	239						
一 大正期の行政	239						
財政の膨張と税負担の増大	郡制の廃止	247					
二 既成政党の変遷と草加	247						
第一次護憲運動と政党	立憲政友会県支部の変遷	立憲国民党支部の変遷	第二次護憲運動と草加	政友会の分裂と政友本党県支部の設立	立憲民政党の結党と草加	259	
三 普通選挙の実施と大正デモクラシー	259						
市町村会議員選挙	市政町村制と選挙制度	明治四十四年の全面改正	大正十年の改正	大正十五年の改正	府県制の公布	新府県制の公布	259
施 普通選挙初の県会議員選挙	普通選挙初の町村会議員選挙	276					
第二節 組合の結成	276						
一 労働組合の結成	276						
総同盟埼玉労働組合の結成	総同盟埼玉地方連合会の結成	281					
二 小作争議の広がり	281						

	埼玉県の小作争議のはじまり	埼玉県の小作争議の特徴と農民組合の結成	草加地域の 小作争議	小作調停法の施行と小作調停委員の任命	290
第三節	農村と農業の変化	290	一	大正期の農業生産	290
	明治末から大正期の農業	養蚕	家禽と家畜	川柳村の農事暦	暦にみる稲作
二	農業経営の変化	297	米価の不安定	大正期における農民層の分解	自作・自小作・小作農家の推移
	規模別にみる農家の分解	農産物の好景気	田畑所有規模別戸数の事例	直接国税多 額納税者	大正期の農民運動
三	水利と耕地整理	306	小作慣行調査	306	公的団体としての水利土功会と番水
	草加町耕地整理の開始	310	第四節	学校と社会教育の拡充	310
	学校施設の充実	奉安殿の建設	二宮金次郎像	大正期の国定教科書	私立中等学 校の設置
	私立中等学校のその後	青年教育と諸団体	幼稚園	321	第五節
一	社会団体の結成	321	地域諸団体の変容	在郷軍人会	借地・借家人の組合
	二	共済制度の成立	323	消費者の組合	川柳消費組合
	三	草加地域の電化と電信電話の普及	327	電信の設置	電話の開通
	四	震災と草加地域	329	関東大震災の発生	草加地域の被害
	震災後の対応	329	救援活動	警護活動	応援活動と義援金
第二章	昭和戦前期の草加	336	第一章	不況下の町村行政	336
一	恐慌と草加町の行政	336	町村財政の整理・縮減	町村財政の悪化と草加	町村合併への動向
二	経済更生運動と草加地域	342	経済更生運動の動向	救農土木事業と草加地域	352
三	草加町政運営と諸問題	352	草加町役場の新築と役場位置変更	字名の改正と新たな区域	谷塚村長後任問題
第二節	無産政党と草加	359			

一 無産政党的結成と選挙	359
無産政党的動向 社会民衆党第一支部草加分会の結成 無産政党的の変遷と社会民衆党埼玉県連合会の結成	
二 翼賛体制の確立と翼賛選挙	365
翼賛体制の成立 大政翼賛会埼玉県支部の結成と草加 翼賛選挙と翼賛壮年団 昭和十七年の市町村会議員選挙と草加町 昭和十七年の草加町会議員選挙	
第三節 労働運動と草加	374
一 メーカーの開始と労働争議	374
労働争議の頻発 大阪窯業争議 帝国煉瓦争議と埼玉労働組合の対応 関東醸造労働組合足立支部と生産組合の設立 第一回統一メーカーとその景況	
二 労働運動の終焉	383
満州事変の勃発と労働運動の変質 産業協力運動の展開 国家主義的労働運動のさきが同盟罷業撲滅宣言と草加地域 産業報国会運動と労働組合の消滅	
第四節 社会・世相の変化	390
一 地域福祉団体と活動	390
方面委員会の成立 草加市域の方面委員 戦時体制下の方面委員会 川柳愛育会 隣保施設 職業紹介所 柿木共行組合	
二 草加市域の愛国婦人会・国防婦人会	397
愛国婦人会 大日本国防婦人会の結成 愛国子女団 大日本婦人会	
三 国民健康保険の開始	401
国民健康保険の萌芽 草加市域の国民健康保険制度	
四 草加警察の復活運動	403
大正期の警察 部長派出所と警部補派出所 警察署昇格運動	
五 交通の発達	410
新田駅の廃止 東武鉄道の複線化 東武鉄道の電化 自動車の普及 バス路線の発達 国道の改修 四号国道の改良工事 大川邸と草加松原の保護 国道工事の進展	
第五節 大正・昭和前期の産業	418
一 昭和初期の農業	418
不景気が村々を襲った 草加町の低い納税率 用水 排水 野菜栽培の盛況 園芸都市農業の発展 青果市場の設置 草加青果市場の合理化 市場の合併 谷塚 青果市場の合理化 青果市場の再発足	
二 産業組合と経済更生運動	429
草加町商工会の設立 金融機関の進出 銀行の進出 中井銀行の破綻 勤儉貯蓄組合および信用組合	

三	地場産業の動向	434
	草加せんべい製造工程の機械化	
	草加煎餅商組合の設立	
	晒業の動向	
	注染の登場	
四	工場の伸張	441
	工業の拡大	
	工業生産の変化	
	大阪窯業の進出	
	皮革工場の転入	
五	商工業の再編成と企業整備	444
	統制経済と組合	
	企業整備と有限会社の結成	
	転廃業と動員	
	工業組合の結成	
	晒業の企業整備	
	戦時下の工業	
第六節	大正・昭和前期の文化	451
一	白樺派文学と近藤経一	451
	自然主義文学と白樺派	
	文芸誌『白樺』の創刊	
	衛星誌『生命の川』と近藤経一	
	近藤経一の作品群	
	白樺派の影響	
二	俳誌『稻の花』と関根夕月	455
	稻乃花吟社の活動	
	俳誌『稻の花』の主張	
	『稻の花』五〇支部記念号	
	『稻の花』の休刊以後	
三	秋桜子と東武沿線	458
	水原秋桜子	
	秋桜子の草加地名句	
	文学者の埼玉東部吟行	
	近代文学における紀行文	
	添田知道	

四	文芸復興と豊田三郎	464
	文芸復興	
	雑誌『行動』	
	豊田三郎の作家デビューまで	
	豊田三郎の作家処女作	
	「吊花」と行動主義文学運動	
	『北京の家』	
	豊田三郎の自伝的小説	
	豊田三郎の戦記	
文学	戦後文学と豊田三郎	
五	郷土史と文化活動	473
	「地誌材料稿」	
	「草加町しるべ」	
	『草加町見聞史』	
第七節	戦時下の社会・世相	476
一	戦時体制への道	476
	埼玉県の合併方針と草加	
	谷塚町の成立	
	「皇紀二千六百年」記念事業と草加町の景況	
二	資源と人の動員	484
	人の動員	
	物の動員	
	勤労報国隊	
	農家の生産	
三	戦時下の生活と戦災	487
	隣組の設置	
	戦時体制の組織	
	配給制度	
	配給制度の実態	
	ヤミ取り引き	
	ペン	
	ペンダサを食べる	
	草加の防空体制	
	疎開	
	草加市域への空襲	
第八章	戦後復興・高度経済成長期の草加	499
序	時代の区分と概観	

第一章 戦後の改革と変化・・・・・・・・・・・・・・・・	501
第一節 戦後改革期の草加・・・・・・・・・・・・・・・・	501
一 敗戦直後の改革と民主化・・・・・・・・・・・・・・・・	501
敗戦と草加 引揚げと占領 民主化の実現 自治体警察の新設と廃止	
二 地方自治と草加市域・・・・・・・・・・・・・・・・	507
新憲法と地方自治法 政党の復活 公職追放の影響 町村長選挙と町村議会議員選挙	
第二回一斉地方選挙の結果 行政機構と消防団の整備	
第二節 農業生産と農地改革・・・・・・・・・・・・・・・・	516
一 敗戦直後の農業実態・・・・・・・・・・・・・・・・	516
県の動き 農業転向者の増加 昔に戻った生活 草加市域の状況 供出の実態	
ヤミの実態 米の価格 農業の復興	
二 草加の農地改革・・・・・・・・・・・・・・・・	522
農地解放の経過 農地解放の内容 農地委員会 農地改革の実績 地主土地所有の推移 耕地面積の変化 農地改革の評価	
三 農業協同組合と土地改良区の発足・・・・・・・・	529
農会の解散と農協の発足 農協の事業 内水面漁業 土地改良区の発足 綾瀬川土地改良区 見沼土地改良区	
第三節 労働運動の再建・・・・・・・・・・・・・・・・	533
一 労働組合の結成・・・・・・・・・・・・・・・・	533
敗戦直後の労働状況 県内における労働組合の再建と草加町 労働争議の頻発と激化	
二 労働戦線の統一と経営者団体創設への動向・・・・・・・・	541
同盟埼玉県連合会の結成 埼玉県労働組合協議会の結成 埼玉工業倶楽部の結成	
三 メーカーの復活と地区労の誕生・・・・・・・・	545
メーカーの復活と草加地域 草加地区労連および草加地区労協の結成	
第四節 戦後教育の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・	549
戦時教育の排除 GHQの指令 『くくのあゆみ』 新たな教育方針 新制中学	
組合立の小・中学校	
第二章 新草加町と草加市の設置・・・・・・・・	557
第一節 町村合併と草加市・・・・・・・・	557
一 新草加町の成立・・・・・・・・	557
シャウブ勧告と財政状況 合併の動き 新草加町への道のり 新草加町の発足	
新町長と議員の選出	
二 分村合併と草加市の誕生・・・・・・・・	564

川柳村の合併	八条村と安行村の合併	「新町建設」事業	町制から市制へ	政治
的対決と政党的再編	市長選挙と県議の交代	初の市議会議員選挙		

第二節 農業の変化とスプロール化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・573

一 農業の変容と土地改良事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	573			
供出制度の廃止	換金野菜の栽培	土地改良事業	新田村東部土地改良区	柿ノ木
土地改良区				

二 農業構造の変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・575

近代的農法の導入	農業の普及	農産物の変化	新しい農業経営	谷塚園芸組合
農業の機械化				

三 農地の転用と農家経営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・581

農業生産基盤の縮小	農地の転用	農家の主収入	農業祭の開催	農協組合員の預
金額と貸付金				

第三節 商工業の復興と展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・588

一 地場産業の復活と変化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	588			
ヤミから統制解除へ	草加せんべいの復活	せんべい販売の強化	二組合の結成	
せんべいまつり	皮革工業の転換	皮革組合の結成	ゆかた染の復活	ゆかた組合
の結成	ゆかた染の変化			

二 商工団体の結成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・601

草加町商工会の復活	草加市商工会の設置	大型店の出店
-----------	-----------	--------

三 工場の進出と工業団地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・604

戦後の工業	工業団地の造成	草加八潮工業団地
-------	---------	----------

四 天然ガス開発と地盤沈下・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・611

天然ガスの発見	地下資源利用開発特別委員会の発足	温水ガス開発の中止
---------	------------------	-----------

第四節 人口急増期の草加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・613

一 上下水道と道路の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	613			
生活基盤と環境整備の要望	飲料水	共同水道と簡易水道	上水道の敷設	伸びる
上水道	生活排水と下水道	公共下水道の開始		

二 住宅団地の誘致・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・619

住宅団地	草加団地	松原団地の誘致	松原団地の建設	松原団地への入居
------	------	---------	---------	----------

都市ガスの導入
 公団住宅と市営住宅 |

三 都市計画の決定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・627

計画行政への道	草加市の都市計画	都市計画審議会	総合振興計画	土地区画整
理基本計画				

第五節 住民生活の変容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・629

一 自治協力団体と町会の復活	629
町会の再編 納税組合 新しい自治会 町会会館の建設	
二 交通網の整備	632
生活道路の整備 草加バイパスと道路整備 鉄道の変化 バス網の変化 交通事故の多発	
三 市民の安全と暴力追放運動	638
愛の鐘 青少年問題協議会の結成 常設消防の設置 分署の設置 暴力追放運動 警察署の充実 福祉の再建 市立病院の設置	
第三章 一〇万都市草加の発展	643
第一節 高度経済成長期の市政	643
一 牛山市政と池田市政	643
牛山市長の三選 市議選と多党化 池田市政と女性議員の誕生 四十二年地方議会議員選挙 市制一〇周年と一〇万都市	
二 革新市政の成立	652
市議会の解散 市議会の出直し選挙 革新市政の誕生 黒沢市政から鈴木市政へ 昭和四十九年の市議選	

三 地域開発と市民のまちづくり	661
地域開発と計画行政 市民参加のまちづくり	
第二節 産業の発展	665
一 園芸農業と緑化農業	665
農業経営の変化 農業問題懇談会 庭先販売と市民農園 園芸農業 秋菊の出荷 クワイ焼酎	
二 農業水利の変貌	669
指導要綱 草加の農業と将来への支援	
三 小規模商業と大型店	671
スーパーマーケットの進出 大店法の成立 埼玉県の対応 商調協と商工会	
四 地域商業の振興	679
資金融資と経営の合理化 商店会連合会の結成	
五 工場規制と集団化	683
公害問題の顕在化 工場の公害防止対策 工場の集団化	
第三節 都市化と公害	686
一 スプロール現象と区画整理	686
宅地の急増 スプロール現象 休耕地の雑草とゴミ投棄 清掃工場 区画整理	

二	交通事故の多発	690
	交通戦争 市民交通傷害保険 交通安全母の会 放置自転車 都市総合交通規制	
三	公害問題と環境行政	694
	振動規制と排ガス規制 地盤沈下の進行 大気汚染と光化学スモッグの発生 公害防 止条令の制定	
四	水質汚濁と河川	697
	綾瀬川の汚濁 県南水域浄化対策協議会 市民による浄化運動 綾瀬川再生計画 ワーストワン脱却へ	
第四節	人口急増と教育	701
一	児童・生徒の急増と教育	701
	教育体制の変化 マンモス校 教育環境の充実 幼稚園 県立草加高等学校 上野学園 獨協大学	
二	課外教育と学童保育	708
	学童保育 あおば学園の設置 社会教育課の設置 勤労者への対応	
第五節	市民文化の萌芽	711
一	社会教育施設の整備と市民文化	711
	社会教育施設 図書館の設置 草加音頭と市民の歌	

第IX編 草加市の発展と展望

序 章	時代の区分と概観	725
第一章	市民との協働と市政	727
第一節	市政施行二〇周年を迎えた市政	727
一	市政の転換と政治状況	727
	保守市政への転換 昭和五十年代の議員選挙	
二	行財政改革と都市基盤整備	731
	市政状況 今井市長の行政姿勢 都市基盤整備事業	
第二節	環境整備と市民の活動	737
一	ゴミ追放運動	737
	クリーン草加 環境業務センターの設置と資源ゴミの回収 ゴミゼロ運動 清掃工場	
二	戦後文学と草加	714
	敗戦直後の埼玉文学 俳誌『草の華』 石原慎太郎と深沢七郎 松原団地の作家たち 小山龍太郎 後藤明生 地方文化の発掘	
三	美術家の動き	720
	近代埼玉の美術家 草加を描いた美術家たち	

の設置	ふん害条例	
二 緑の復活	．．．．．	741
環境緑化への期待	そうか公園の設置	市民による緑化運動
イの選定		シティアイデンティテ
三 草加松原の保護	．．．．．	743
草加松原の景観	草加松原の枯死	松並木保存会の保護運動
激特事業とマツの保護	綾瀬川再生計画	埼玉シンボルロード計画
四 町会連合会とコミュニティ活動	．．．．．	749
自治協力団体の登録	町会連合会の発足	町会連合会の活動
コミ協の設置	コミュニティセンターの設置	行政連絡会
五 都市間交流の展開	．．．．．	752
都市間交流	国際姉妹都市協定の発足	国際姉妹都市の締結
広がる国際交流	都市山村交流	カーソン市との交流
第三節 産業の発展	．．．．．	756
一 商業の近代化と商店街・商店会	．．．．．	756
商店街振興診断	商業経営セミナー	協同組合方式によるショッピングセンター
草加せんべい調査	ジャンボせんべいと防災せんべい	せんべいシンボルマークの選定

二 再開発と大規模小売店	．．．．．	764
草加駅東口再開発と商業	キーテナントの決定	
三 工業の変化	．．．．．	766
公害問題への対応	工場緑化の推進	みどりの条例
革関連事業協同組合の設立		皮革産業の経営環境
四 中小企業の振興と観光	．．．．．	769
観光協会の発足と「草加まつり」	草加市民まつり	地場産業振興協議会
ラソン		せんべいマ
第四節 水害と防災	．．．．．	771
一 昭和二十二年水害	．．．．．	771
カスリーン台風	草加市域の被害	昭和二十年代の水害
二 都市型水害の多発	．．．．．	774
都市型水害の発生	昭和五十四年水害	昭和五十六年水害
三 治水対策の進展	．．．．．	776
治水から知水へ	浸水から親水へ	松原団地の水害
出抑制	浸水住宅改善と埋め立て盛り土規制	伝右川の改修と排水機場
綾瀬川改修	平成三年水害	綾瀬川放水路
		平成五年水害
		辰井川
		平成の

四 地震対策と市民防災	784
地域防災計画 防災総合訓練 防災行政無線の設置 河川情報システムと局地天気予測 緊急食料協定 阪神・淡路大震災を経験して	
第五節 青少年団体と健康スポーツ宣言	788
社会体育の推進 青少年生活実態調査 市民体操 学校開放 スポーツ健康都市宣言	
第六節 市民文化の展開	791
一 社会教育設備の整備	791
市民ギャラリー 川柳文化センター 中央公民館の新築 谷塚ふれあいセンター 記念体育館 アコスホール	
二 文化財の保護	793
草加史談会の発足 文化財保護の開始 市指定文化財	
三 文芸のまちづくり	795
埼玉文化会の発足 『埼玉文化』の発刊 文学碑の建立 文芸草加『ふれあい』の発行 其の後の文学碑建立 草加文庫の出版 草加市文化賞の創設	
四 『奥の細道』と草加	802
『奥の細道』と草加 『奥の細道』によるまちづくり 市民参加による芭蕉事業 芭蕉誕生	

像の建立

第二章 二十一世紀の快適都市に向けて	807
第一節 市政施行三〇周年と草加市	807
一 市政施行三〇周年と草加市	807
市制施行三〇周年記念事業 パブル景気の崩壊と市政 今井市長の辞任 小澤市政の誕生	
二 都市基盤整備の完成	810
草加駅東口再開発事業の完成 外かんの完成 綾瀬川放水路の完成 下水道の進展 松原団地駅西口再開発	
三 商工会議所の設立と草加の産業	813
商工会から商工会議所へ 特例融資の利子補給事業 地場産業の現在 商工会の法人化	
四 生産緑地と新しい農業	817
生産緑地の宅地並み課税 現在の農業 草加市農協の誕生	
五 音楽と文化のまちづくり	820
文芸を生かしたまちづくり 奥の細道・国際シンポジウム 奥の細道文学賞 国際ハーブ音楽祭 草加市音楽都市宣言 二十一世紀の草加の文化	

六	市民生活の変化	823
	平成塾と「であいの森」	
	国際化の波	
	女性問題	
	綾瀬川の水質向上	
	ゴミ問題と	
	東部清掃組合の改組	
七	市史編さんの歩み	827
	市史編さん事業の市民要望	
	市史編さん室の設置	
	編さん大綱の策定	
	市史編さん協	
	力会と編集組織	
	情報公開と資料保存	
第二節	快適都市草加の展望	831